

## 【防災訓練概要】

### ー 現 状 ー

- ・ さいたま市の救急出場件数は年間で6万件以上。助けが必要な人のもとに専門スタッフがすぐに到着できない。
- ・ 「助けられたはずの命が助からない」、「重症に至らずに済んだはずの人が重度の後遺症に苛まれる」そのような事態が起きている。
- ・ 皆さんの協力が必要！！

### ーポイントー

- 1 罹災者の意識があるか否か、耳元で声をかけるなどして確認。
- 2 救急の必要があるときは、周囲にも協力を求める。この際、「誰か」と漠然と言うのではなく「その黄色いトレーナーの人」や「赤いバックを持ってるお兄さん」など具体的に指名すると動いてもらえる可能性がアップ。
- 3 2で協力を得た人達に「119番通報」と「AEDの手配」を依頼。
- 4 AED、救急車の到着までに顎を上げ、気道を確保。人工呼吸。罹災者の胸骨の間に腕を真っすぐ伸ばして両手を添え、掌の付け根で5cm以上沈み込むように押して緩める(30回ほど行き、様子を見て繰り返す)。この措置により脳へのダメージが軽減できる!
- 5 AEDのスイッチを入れ、音声ガイダンスの指示のとおり設置。成人の場合、右胸と左脇腹にパッドを張る(2つのパッドが重なってしまうくらい小さい幼児にやむを得ず使用する際は、背中と腹など心臓を挟み込むように貼ること)。女性の場合、胸を晒すことになるので周囲の人達で背中合わせに輪を作り視線を遮ってもらおうとよい。
- 6 電気ショックの際は①パッド同士が重なっていないこと②他の人が罹災者に触れていないこと、を確認して行う。

①周囲にも助けを求める



②人工呼吸を実施



③AEDの音声ガイダンスに従い設置



④電気ショックの際には罹災者に触れないよう注意



講義をいただいた消防署の皆さま



大勢の方が参加くださいました



【 防災訓練参加者もAEDの使用を体験 】



【自治会独自訓練の様子】

消 防 へ の 通 報 訓 練



消火器の使い方の基本を確認



市の「身近な地域の防災拠点モデル事業」期間が来年度中に切れることに関して活発な討議が行われました

